

令和7年度 学校評価（自己評価）報告書

認定こども園千葉明德短期大学附属幼稚園

1 本園の教育理念・目標・方針

● 教育理念

学園建学の精神に基づき、豊かな情操と自主自立の態度を養い、心身共に健康な幼児を育成する。

「明德を明らかにすること」が建学の精神です。明德とは人が天から得たすぐれた能力、人間として生まれながらに持っている人間性をいい、明德を明らかにする、とはそれを輝かせるということ。

そのためにはまず、幼児期には健康な身体と他者との対話力、直接体験を通じた知恵と知識を身につけ、徳性・知性を究める必要があります。そうすれば、善悪の判断ができるようになり、心が正しく豊かなものになると、創立以来引き継がれています。

● 教育目標

明るく・強く・素直な子

● 教育方針・特色

めいとくの森で自己形成する楽しさを実感する

～将来伸びる子は自然を通して、知的好奇心を育てています～

①自然とかわり、五感（視る・聴く・嗅ぐ・味わう・触れる）をはたらかせて知を育み楽しむ保育

②身体を動かして遊ぶ楽しさを実感する保育

③ものを作る楽しさと、試行錯誤しながら工夫するおもしろさを味わう保育

④さまざまな思いを共感しあい、人とのかわりを豊かにしていく保育

2 本年度のねらい

50年余りに渡り積み重ねてきた本園の保育実践をもとに、一人ひとりの子どもを大切に、明德の自然の中で友だちとの気づきや感動を共有して遊び、さまざまな人とつながり生きる力を育てていく。

幼稚園機能と保育園機能をもつ幼稚園型認定こども園として一体的な教育・保育を行う。

3 総合評価

No	評価項目	評価のまとめ
1	教育目標・教育方針	教育目標、教育方針から園児の育ちで大切にしていくことやそれに必要な内容を考え指導計画を立ててきた。
2	教育課程・指導計画	学校保健安全法の観点から安全面への配慮を徹底し、健康でのびのびと過ごせる環境づくりを目指してきた。安全面に配慮していることから今までと違う保育であると感じ、様々な意見をいただいている。園の取り組みの意図を理解していただけるよう、細やかに目的や経緯について知らせていく必要がある。
3	教育環境	園庭推進チームと芸術推進チームが、定期的に意見交換や実施計画を立て取り組んできた。園庭推進チームが中心となって園庭に野外舞台をつくり、自然とかかわる中で感じたことを自由に表現できる場所の一つとして芸術推進チームと連携しながら計画を遂行してきた。幼小連携では、園児が小学校へ学校探検に行き交流を持ち就学への期待へとつながった。食育については毎月19日が食育の日であることを保育者が意識し、見通しをもって計画を立て実践してきた。このことにより
4	教育の内容方法	「食」への関心が高まったと高評価をいただいている。
5	教師の役割・資質の向上	園内研修を定期的開催し、子どもの権利条約や保育者としての姿勢について学び子どもや保護者の思いに寄り添ってかかわるように心がけてきた。またICT活用による業務の効率化を行い教材研究や子どもと向き合う時間を生み出せるようにし保育の質の向上に努めた。
6	特別支援教育	配慮が必要な子どもに対してのかかわりを職員間で共有し、連携を図りながら取り組んできた。専門機関や保護者と連携を図り、研修で具体的なかかわりを学び子どもたちが過ごしやすい環境づくりを心がけて行く。
7	保護者との連携	昨年度より保護者アンケートの回答率を上げるために、紙面とアプリでの両面からアンケート実施している。紙面での回答率が上がったことから、今後も紙面でのアンケートも実施していきたいと考える。参観日は年3回、保護者が参観したい保育活動を選択できるようしていることから園理解にもつながっていると感じる。その反面、行事内容の変更提案をいただいていることもあるため、行事のねらいや内容を明確にし教育活動として行っていることを理解していただけるよう働きかけていく。PTAのアンサンブルやママプレのサークル活動の年間計画を立てて実施したことで、全園児が参加でき保護者との交流が深まった。

8	子育て支援	園庭開放で未就園児の子どもたちが在園児とかかわったり、園の環境に触れるたりしながら遊べる機会を設けたことで園を知っていただくきっかけとなった。子育て支援ひよこ組では、担当と園生活や子育ての相談がしやすい環境作りを心がけたり看護師による手洗い指導の活動や保護者向けに生命の不思議さから子どもの身体についてやベビーマッサージを使った保湿についての講話を実施し保育内容の充実を図ってきた。預かり保育は就労による利用家庭が増えていることから、利用条件の見直しをした。就労以外にも家庭の事情で預かり保育を利用したいご家庭もあることから予約方法の手順の変更をするなどして、条件に幅をもって利用できるようにしている。
9	運営管理	子どもの怪我や体調不良の記録を共有し、全職員が日々の対応について把握しできるようにしたりヒヤリハット報告を積極的に出し改善点について話し合いの時間をもち、安全管理に努めた。毎年保護者から、幼稚園の門の施錠の強化を希望する意見が出ている。令和8年度の改修工事を進めていきながら、具体的に開始するまでの準備に時間を要したことから、門が開く時間に警備員が立ち安全確認を実施した。
10	学園内での連携・交流	日常保育の中で学園理事長とともに園庭の散策をしたり、木の実や虫などの知識について深めたりする機会を持つことが出来た。短大生や職員によるアコーディオンや和太鼓の演奏を見たり聴いたりする機会を持ち交流を持つことができた

4 今後取り組むべき課題

運営管理	安全管理の見直しが子どもたちの遊びの制限ではなく、安心と教育の土台として保護者に理解していただけるよう、リスクとハザードを峻別し職員の見守りスキルを向上させていく。また、「安全教育」を育み、安全が確保された中での最大限の自由を保障する環境構成へと再編していきたいと考える。
教職員の資質向上	保育者としての望ましい姿勢について改めて学び、子どもや保護者とのかかわりについて大切にしていけるべき内容を全体で共有していく場を多く作る。業務内容の役割を明確にし、経験年数に相当するキャリアを積んでいけるようにしていく。
子育て支援の取り組みの充実	園理解を深めていけるように、職員が学んできた内容をイベント的に公開できる場を設定していく。休日園JOYでは子ども、保護者、職員と一緒に遊びを楽しんでいくとともに、園庭の環境整備などに協力していただきながら園づくりの充実を図っていきたい。